

養護老人ホームの歴史

養護老人ホームの前身は明治の後半に養老事業として創設された養老院です。高齢者の生活を支援してきた養老院は120年近くの歴史を持ち、事業の内容は時代とともに変化してきていますが、高齢者の支援に対する基本的な考え方は現在も変わることなく引き継がれています。

高齢者サービスが多様化していくなかで、人への支援を基本に据えて事業を継続している養護老人ホームは、老人福祉法に基づく大切な役割を担う施設として長年にわたり皆様の信頼を得ております。



養護老人ホームの役割

入居後も出来る限り自立した生活を送りながら暮らしの困りごとの解決を図り、その人らしいいきいきとした生活を送ることを目標としその支援をします。

※※※ 養護老人ホームに入居されたきっかけ ※※※

ひとり暮らしをしているが物忘れにより、火の不始末や片づけが出来ず、極めて不衛生な環境で生活をされている。

同居家族より虐待を受けているまたはその疑いがある。

入院中に自宅が処分され、退院後の行き先がない。

夫(妻)との離別(死別)により、その後の生活をひとりで営むことが困難。

借家暮らしをしているが、高齢等の事情により賃貸契約の更新が困難。

人との関りが上手くできず、周囲との関係が悪化。

障がい者施設や精神病院等で生活してきたが、高齢となり高齢者施設への入居を求められている。

